



米軍と方を並べて戦争へ 改憲 NO!

トランプ大統領は6月、G20大阪サミットの前に、日米安保条約を不公平だとして「日本が攻められたときに米国は戦わなければならない。しかし、米国が攻められたときに、日本は戦わなくてもいい。だから変えなくてはいけない」と語りました。

この主張は安倍首相の主張とそっくりです。かつて自身の著書で「日本がもし外敵から攻撃を受ければ、アメリカの若者が血を流します。しかし、日本の自衛隊は、少なくともアメリカが攻撃されたときに血を流すことはない」と書いています（『この国を守る決意』）。

米軍が攻撃されたら日本の自衛隊と一緒に戦い、肩を並べて血を流す。これが安倍首相の改憲の狙（ねら）いなのです。



「ホタルの光」考

G20で大阪は6月終わりの1週間、大騒ぎとなった。巷（ちまた）ではトランプ米大統領は宿泊先のホテルに程近い「太閤園」でホタル観賞をしながら食事をするという噂が…。「太閤園」は広大な日本庭園を囲むように結婚式場や料亭が配置された施設だ。ふと疑問に思った。アメリカに蛍はいないのか。調査してみた。

生息地は、砂漠と南極・北極以外の世界中。答えは意外なものだった。アジアはもちろん南・北・中央アメリカの湿潤な地域に生息、英語でファイヤ・フライという。ホタルは清流の証のようにみんな思っているが、圧倒的多くの種類は陸生昆虫だという。世界の約2700種類のホタルの中で幼虫が水の中で育つホタルは10種類しかおらず、そのうち3種類が日本に生息。それ故に「清流の証」のイメージが定着したようだ。

普通、蛍が見られる季節は、西日本では6月だが、北日本では6月下旬～7月中旬に見頃を迎える。標高の高いところでは7月中も十分に鑑賞可能。長野県の志賀高原石の湯は6月から遅いと10月まで見られ、ここのゲンジボタルは天然記念物にも指定されている。見頃は8月ぐらいまでか。北海道では7月20日前後が見ごろとなるようだ。まだまだ鑑賞できる。

「ホタルの光」は結構長いのだ。外交稚拙（ちせつ）者の安倍さんへの「蛍の光」は一日も早く贈りたいものだが…。

※稚拙…こどもじみていること

飯田光徳 社会福祉法人「野の花福祉会」



秋田竿灯まつり